

【樹木の部屋】

レンギョウ (モクセイ科レンギョウ属 Forsythia Vahl)

和名：レンギョウ属（連翹属） **別名**：レンギョウウツギ

英名：Golden bells, golden bell flower

シソ目 落葉性低木 **原産地**：中国・朝鮮・日本

花言葉：希望、希望の実現、集中力 **花の色**：黄



← **写真-1** レンギョウの樹形枝、花

撮影日：2014年4月7日

撮影場所：哲学の道
(京都)にて

撮影者：M さん

→ **写真-2** レンギョウの枝葉

撮影日：2014年4月7日

撮影場所：哲学の道
(京都)にて

撮影者：M さん



← **写真-3** レンギョウの花

撮影日：2014年4月7日

撮影場所：哲学の道(京都)にて

撮影者：M さん



銀閣寺橋から南禅寺近くの若王子橋までの、哲学の道で見かけました。

落葉低木で、主に枝の先端が地面に付くとそこから根をだして増える「つる性」と、幹や枝が立ち上がる「直立性」の二種類。葉が芽吹く前の早春頃、細長い枝を地際からたくさん伸ばして、枝を埋め尽くすほどたくさんの花。その後、緑色の葉が、対生に芽吹き、それが秋になると濃緑色、概憤色（くすんだ黄緑色）、紫色と順に変色

し、最後に落葉。花びらは基部から深く 4 つに裂けてやや斜めに開花。雌雄異株。丈夫な植物で日本なら地域を選ばずどこでも育てられ、庭木はもとより公園や垣根など用途が広い樹木です。鑑賞価値も高く、日本で多く栽培されているレンギョウ類は中国原産で枝が直立するシナレンギョウや枝が弓状に伸びる朝鮮半島原産のチョウセンレンギョウ。シナレンギョウとチョウセンレンギョウをかけ合わせた園芸品種も普及しているそうです。枝の髓が早期に消失するため、節の部分を除いて中空になることから“空の木”、レンギョウウツギ(連翹空木) という別名が付いたそうです。

果実は解熱剤、消炎剤、利尿剤、排膿剤、腫瘍・皮膚病などの鎮痛薬(漢方薬)として用いられているそうです。成分にトリテルペン、モノテルペングリコシド、リグナンを含み、強い抗菌作用がある。成熟果実を一度蒸気を通したのち、天日で乾燥し用いる。日本薬局方では、レンギョウまたはシナレンギョウの果実を用いているそうです。

管理：

花の終わった直後に古い枝や今年花をつけなかった弱い枝を根元から切り落とします。年月を経ると樹全体の勢いが弱まり花つきが悪くなります。5 年に 1 回くらいすべての枝を 3 分の 1 残して切り詰め。今年伸びた新しい枝の中に 7～8 月頃には花芽が作られているので(咲くのは翌年の春)夏以降は枝を切り落とさないように。

挿し木は新しい枝が出てくる前、2～3 月が適期。枝を 20 c m の長さに切り取ってそれを湿らせた川砂にさしておくと根がでてきます。生長は早く、春以降は十分に日光に当てて育てると、枝数はまだ少ないものの、翌年の春から花を付けます。

植え付けの適期は真冬を除く 11 月～3 月。地際からたくさんの枝を伸ばすので深植えはせずに、水はけを良くするため、土を盛って植え付けるようにする。

挿し木、取り木で増やすこともできますが、挿し木の方がより簡単。

<ちょっと一言>

日本原産種(日本の一部地域に自生している野生種)

- ・ヤマトレンギョウ (学名: *Forsythia japonica*)
 - 中国地方の石灰岩地に分布。
- ・ショウドシマレンギョウ (学名: *Forsythia togashii*)
 - 瀬戸内海の小豆島の石灰岩地に分布。

日本原産種は、他のレンギョウ類に比べて開花時期が 4 月 - 5 月頃と遅い。ヤマトレンギョウは葉に先立って花を咲かせ、ショウドシマレン

ギョウは葉の展開と同時期に独特の緑色を帯びた黄色い花を咲かせる。

この 2 種は、全国的にも限られた地域にしか分布しない固有種で、現在の生育地で絶滅すると野生状態では地球上から完全に消滅してしまうことになるため、絶滅危惧種に指定されています。